

## 新宮山産ぐるーぷ第2139回

### モノレール小屋撤去と行仙岳北側の奥駈道整備など

◇ 実施日； 7月22日（木） 晴

◇ 参加者； 沖崎吉信、児島道夫、生熊敏男、大江加予子、畑林

清子、松本吉殖、山川治雄、梶野照雄、志岐敬

9名

モノレールの完成と同時に設置した駐機小屋だが、屋根や柱と搬器の間隔が狭く、何度も荷物が接触することがあった。最近では駐機小屋ではなく林道脇に駐機することになり、小屋の必要性が無くなっていった。



登山口に集合



駐機小屋の解体



朝9時、登山口に到着、児嶋さんは早朝に家を出て一人で屋根を

撤去されていた。工具類をモノレールに積んで駐機小屋で降ろし、行仙小屋に先行する女性陣のザックを終点まで運ぶ。

再び駐機小屋に降りて本格的に解体工事を始める。

壁は留めてある番線を切って、全体をずらして下におろし、地面でトタンを外す。パイプはジョイントを上部から外していき、地中に刺さっている部分をゆすって抜いていく。コンクリートでしっかり固められた2ヶ所はゆすっても外れそうになく、大ハンマーを登山口まで取りに行つて、交代で叩き割った。



トタン板、パイプを林道に降ろす

コンクリートを割るのに少し時間はかかったが、解体はスムーズに進み、事故なく2時間弱で終了した。パイプやトタンなどを2回に分けて登山口に降ろし、行仙宿に向かう。

11時45分、行仙宿に到着しそのまま昼食を摂る。

食後、梶野、山川、志岐の3人で行仙岳北側の奥駈道補修に向かう。捲き道にできた新しい作業道の分岐に標識を立てた。

先日確認していた木の根が露出して歩きにくい場所に到着。



行仙岳北側に向かう



作業道分岐に標識



倒木を切る



土を削る



栈木を入れる



階段を作る

カエデと思われる倒木を切断して、迂回路の入り口を作る。山川さんと志岐さんがトンガで土を削り、歩く幅を確保、10m程離れた

ヒメシヤラを一本切って栈木を作り、鉄杭を打ち込んで固定した。黒いプラ階段で3段の階段を作り、歩きやすいように工夫したが、地面は柔らかいので、どのくらいの期間固定されているかはわからない。

行仙宿に戻る途中、頭をぶつけそうになった斜木を切除した。小屋に戻ると、児嶋さんが巣箱をもう一つ木に取り付けていた。お堂前で写真を撮って下山した。



巣箱の取り付け

本日の参加者

林道に降ろしたトタン板など

モノレール傍の林道に降ろしたトタンやパイプなどを谷側の広場に移す。材木は濡れると腐ってくるので、児嶋さんが持ち帰った。松本さんは次回のストーブ交換に向けて、新しいストーブの見分や煙突の設置状態などを確かめられた。  
(記：梶野)

### 行動タイム

登山口 09:00→09:10 駐機小屋解体 10:50→11:00→11:40 行

仙宿 12 : 45 → 13 : 11 行仙岳北側 13 : 46 → 14 : 25 行仙宿 14 : 40 →  
15 : 10 登山口